
くるひもくるひも

梅酒の梅子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

くるひもくるひも

【Nコード】

N4936B

【作者名】

梅酒の梅子

【あらすじ】

幼馴染の天子と恵介の楽しい日々。いつまで幼馴染なの？

1つめ：あたらしいあさ（前書き）

頑張って連載を。応援、アドバイス、待ってます。
何か言ってくれるとうれしいです。

1つめ：あたらしいあさ

「……い、おーい、おい、天子そめい、起きろつて」
誰かが私を呼んでる。
ん？誰？お母さん？

「…んー、だあーれ？」

「だあーれ？　じゃねーだろおー」

あれ？この声……

ガバツ
!!!

「あわわわ、けっ恵ちゃん!!??」

「天子やつと起きたか」

「なっ何で、恵ちゃんがいるの？」

「叔父さん、もお家出たぜ？先に出るから起こしてくれて頼まれただけ……」

ポリポリと頭をかく。

「とっ年頃の女の子の部屋だよ???」

「ああ、そーだなあ、一応女の子だもんなあ、そーだよな、わかったから早くしろー」

そう言っていると恵介は階段を降りていった。

三原天子と萩谷恵介は家が隣同士の幼馴染み。どちらの両親も父親が医者、母親が看護師。どちらにも4つ上の兄がいて、笑っちゃうような計画された家族。

昨日高校の入学式が終わって今日から学校生活が始まる。
私はさっさと身支度を整えリビングに降りていった。

「天子、オレンジカー？」

「うん！ありがとう」

いつものやりとり。どちらの両親も病院勤めなのでどちらかの家で
ご飯を食べることが多い。

「クラス一緒だといいね」

「おおーそーだなー、担任と隣の子は美人がいいなあー」

「はあ」

「ごちそーさま」

「えっ？もお終ったの？」

「いつもながら天子は食うのがおせーよ」

「だってー」

「俺が荷物とつてくる間にちゃんと支度終えとけよー」

そう言つて食器を片付けて出ていった。

「急がなきゃ」

… 10分後…

ガチャッ

「天子ー」

「はいー！！今行きます！！！」

戸締まりをして家を出る。

庭を歩いていくと道路にカラフルな“それ”はいた。

「かつちよいー!!恵ちゃんコレどーしたの?」
「いいだろーずっと作ってたんだよー」

そこにいたのは自転車。

チャリと言ってもただのチャリじゃない。

まず色は黒と白でチェッカーフラッグ模様。
ベルは黄金でで普通のよりも一回り大きくてライオンの形。
ハンドルやら何やらは黄色で統一。

「まあいいから乗れー」

「乗せてってくれるの?」

「おおー」

「毎日?」

「なにいつてんだよー、交代制だ」

「え?交代?私恵ちゃん乗つけてなんて走れないよ?」

「大丈夫、大丈夫、電動だー」

と彼は足元のバッテリーらしきものを指す。

「おお!!!恵ちゃんすごい!!!」

「それだけじゃーないぜ、サドルは低反発素材!」

座ってみる...

.....

!!!!!!

「すごいよ、すごいよ恵ちゃん!!!!!!お尻痛くない!天才だよ!

「!!」

「だろー、まあいいから乗れよ、遅刻する」

「うん!!!!」

それから20分後2人はめでたく同じクラスとなり、幼馴染の関係はつづいていく。。。

つづく。。。

2つめ：あたらしいものとたたかい（前書き）

頑張ってます、なんか書きたいです。

応援してください、アドバイスもください。

どうぞ、よろしくお願いします。

2つめ：あたらしいものとたたかい

新しい学校。

新しい制服。

新しい上履き。

新しい教科書。

新しい人たち。

新しいものでいっぱい。
友達もできた。

「天子ちゃん」

前の席に座ってる男の子が話しかけて来た。

「はい？」

「てんしとは読まないんだよね？」

「あ、それよく言われるんだけどね、天って書いてそらってよむの」

「そらこでもてんしでもどっちでも可愛い名前だね」

「ありがとう、私も気に入ってるの」

「そっか」

「あのー名前なんていうの？」

「まえかわさこ
前川悟」

「悟くんか、よろしく」

「うん、よろしく」

「いきなりだけど、天子ちゃん彼氏いる？」

「えっ？彼氏？」

「うん、そう」

天子には恵介以外に親しい男の子はあまりいないし、もちろん付き合ったことだってない。
今までそんな質問をされたことがなかったので、びっくりしてしまった。

そんな天子のところに彼が。。

「天子ー」

「恵ちゃん」

頭にはてなまーくをつけた悟。

「あつ 悟くん紹介するね、こちら私の幼馴染の萩谷恵介くん」

「恵介です、天子とは赤ん坊のころから一緒にいまーす」

「恵ちゃん、こちらは前川悟くん」

「悟です、どうぞよろしく」

少し引きつった顔の悟。

恵介は何も気にしてないような表情。

『天ちゃん！！！』

「天子友達が読んでるぞ」

「あ、うん。行つて来る！」

恵介と悟を残して走り去った天子。

「悟くん、言っておくけど、どこの誰にも天子はやらねーよ」

「悪いけど、君だってただの幼馴染じゃないか」

「俺たちはただの幼馴染じゃねー」

「まあいいよ、勝手に言つてて、それでも僕はあの子をもらつぷよ」

「無駄な努力はしないほうがいいぜ？」

「無駄じゃないよーになるさ」

「あつそー」

恵介と悟は冷戦状態に。。。。

“ あつ恵ちゃんと悟くん、もうあんなに話してる。すごいなー男の子って簡単に仲良しなのかあーうらやましい ”

一人何も知らない天子だった。

3つめ：はるのかぜとじてんしゃ〜その1〜（前書き）

サーバーのダウンでかけませんでした。

待ってくださってた方、ありがとうございます。

そして、先日メッセージをくださった、その貴方！

ありがとうございます！これからも頑張ります！

3つめ：はるのかぜとじてんしゃ〜その1〜

入学式から一週間。

学校生活にもなれた天子たち。

時刻は放課後。

駐輪場で恵介を待つ天子。

恵介は友達と部活見学をしてくるとのことです。5：00に駐輪場で待ち合わせになった。

さっきまでは新しくできた友達の沙代子ちゃんと千佳ちゃんと一緒に居た。

二人とも電車通学なので4：30に帰って行っただ。

「5：00まであと30分もあるのかあ、どうしようかなあ」

と、ぶつぶつ言いながら自転車にお尻をちょこんと乗せて考える天子。

「うーん、何をしよう……うー」

「あつれ???!!天子ちゃん???!!」

天子を見つけ小走りで駆け寄ってきた一人の男子生徒。

「わっ、悟くん」

「こんなところでどうしたの？鍵とかなくしちゃったの？」

「ううん、違うよ。恵ちゃん待ってるの」

「恵ちゃん？　ああ恵介か…何やってんのあいつ」

恵介と聞いて少し機嫌を悪くした悟。

でも、天子はそんなのにはまったく気づかない。

「恵ちゃん、部活見学行ってくて言って5：00にここで待ち合わせなの」

「5：00？　天子ちゃん俺送ってってあげるよ」

「そんな、いいよ、いいよ。大丈夫！」

「だって、あと30分も何するんだい？」

「えっと…探検…？散歩…？」

「ほらね、何もすることないんだろっ？」

「うーん、でも、恵ちゃんが」

「じゃあ「うしよっ！置手紙書こっ置手紙」

「…おお！！！！置手紙！！！！画期的！！！！すごいよ悟くん！」

「え？ いやあ、まあね！！！！」

そういうわけで悟くんの提案どおり恵介に置手紙を残すことにした天子。

……恵ちゃんへ……

天子は先に帰るよ！！

心配ご無用！！

……天子……

「よっし！できた！」

「じゃあ行こうか天子ちゃん」

「うん！」

悟るの自転車は一人乗り用なので天子は立ち乗り。

春の風を体いっぱいにつけて気持ちよさそうな天子。

長い髪の毛がふわふわさらさらと流れてゆく。

道を教えながらなので、いつもより長く感じる帰り道。

「わざわざ送ってくれてありがとう!」

「いいや、いいよ。それよりずっと立ちっぱなしで足とか痛くなかった?」

「ううん、大丈夫!春の風が心地よかった」

「そっか、それならよかった」

「お礼に何かご馳走しようか?」

「じゃあお言葉に甘えてって言いたいところだけど、今日は遠慮しておくよ。また今度誘って」

「うん、わかった。気をつけて帰ってね」

「じゃあまた明日！」

「バイバーイ」

手を振り見送る天子、走り出す悟。

“ ああゝ二人乗り用を買ったんだっとなゝ失敗。。。 ”

ほんのちよつと後悔する悟。

4つめ：はるのかぜとじてんしゃくそのそ（前書き）

一気に書き上げました。

応援、アドバイスぜひひくください。

待つてマース！

4つめ：はるのかぜとじてんしゃ〜その〜

何も知らない恵介。

「なー文也ー、俺やつぱバスケがしてー」
文也こと宮本文也は俺の親友だ。

「やつぱ、ボールは触ってなんぼだね」

「明日またバスケ部行こうぜー」

「いいよ。ところでさ、お前今日天子ちゃんと一緒に帰らないのか？」

「？いや、5：00に待ち合わせー」

「俺さつき校門のところに天子ちゃんらしき子見たぞ、誰かのチャリの後ろに乗ってた」

「いやー人違いだろー、やべーもう少しで時間だ」

「人違いか。。。まあいいや、帰ろうぜ」

「おおー」

帰りの支度をして、部室のところで文也と別れた。

まったく何も知らない恵介。

“ 5：00すぎちゃったなー天子、怒ってないかなー”

駐輪場についた恵介。

“ あつれ？天子いない”

とりあえず自転車を取りに行く恵介。

かごに入ってる白い紙を見つけた。

「ああああ？！」

いつそいで自転車こぎだす恵介。

“ あついた！”

「おい！」

「うわっ、恵介。 あっ天子ちゃんやっぱいなかったの」

「なあ！天子は誰と一緒にだった！！？」

「ほら、やっぱあれ天子ちゃんじゃなかあ」

「誰と一緒にだった?!」

「お、おちつけよ。後ろ姿だったから顔はわかんなかったけど、男だった、、、かな?」

「アーーーーーやられた。じゃ!」

そついうと恵介は走り去った。

はあ・・・はあ・・・

自宅に着いた恵介、荷物と自転車をどかっと置いて三原家へ。

ピンポンピンポンピンポンピンポン

“誰? そんな連打しなくても”

「はあーい」

「天子」

「あつ恵ちゃん、ピンポン押しすぎ!!」

「天子」

「ん？何？あ、恵ちゃん上がって。今ね、天子特製ババロアをつくってたの」

「あ、ああ」

“いつもと様子同じだから特に何もなかったんだろうな”

リビングのソファに座る恵介。

「あとさつき冷蔵庫いれたばっかなの、まだまだ時間かっちゃうよ」

そついいながら冷蔵庫をのぞく天子。

「ココア飲む？」

「あー、飲む」

「わかったあ」

「なあ」

「ん？」

「今日、歩いて帰ったのかー？」

「あ、ねえそうそう。あの置手紙読んでくれた？あれ考えたの悟くんなんだよ！」

「そーなのか…」

“なんか今日の恵ちゃん変だなあ”

「恵ちゃん、なんかあつた？」

「は？ いや別になにもねー」

「部活大変だったの？」

「違うよ。大丈夫。ただ・・・」

「・・・ただ？」

「いや、別に」

「えー・・・教えてよ」

「やだね！」

「あつ！わかった！」

そういつてソファに駆け寄ってくる天子。

「私に置いてけぼりにされたのがかなしかったんでしょう！……！！？」

「……！！……！！……！！」

へんなところで鋭い天子。

「あゝ凶星だあ！」

「ちがーよ……！！」

「わかった、わかった、明日は一緒ね♪まったく恵介君はあまえんぼうでちゅね」

「んだよーちげーよ」

「へっへへ」

「それよりお前冷蔵庫そんなに開けたり閉めたりしてたら固まるものもかたまんねーだろ！」

「あつそつか……！！」

すこし距離が縮まったかと思った今日このごろ。。。。

5つめ・じかく、じかく、じかく（前書き）

長く間空けてすみません。

ちよっというくらいあります。

間あけてしまったせいで今までと少し雰囲気がちがっちゃってるかもしれませんが、どうかお許しください。

5つめ：じかく、じかく、じかく

西校舎屋上。普段ここは立ち入り禁止で鍵が掛ってるんだけど、俺と文也は入れる。

兄貴から貰った屋上の鍵。

当時、兄貴の大瑚と天子の兄の律には仲の良い若い先生がいて、先生が秘密で合鍵を作ってくれたらしー。

現在、その先生は他の学校に行っちゃったし、兄貴たちも大学生だから鍵は必要ないって。

俺はその鍵でもう一つ合鍵を作って、文也にやった。だから俺らだけ自由に屋上に入入りできた。

入学してから天気の良い日はいつも来てるけど、いままで誰にも会ったことは無いから、今んとこ俺らだけの憩いの場になってる。カナ？

今日も誰にも見つかんよーに階段をあがり、ドアを3回叩いてから、鍵開けて、ドア開けて、入って、閉めて、鍵掛けた。

3回叩くのは俺たちの合図みたいなもんだ。

「ああ——やっぱ気持ちーや」
のびーっとして辺り見回す。

屋上には兄貴たちがどつかから持ち込んだベンチ3つとアルミ製のあみあみのゴミ箱、それから遊び道具とかレジャーシートとかが入ってる箱が2つある。

俺はベンチの1つに寝転がっておにぎりを食べながらゆっくり流れる雲を見ていた。

“いーよなー雲は”

コンコンコン - ガチャガチャ - キー

「あれ？早いな恵介」

文也はそう言ってもう1つのベンチに座ってご飯を食べる。

「今日は天子が勝手に弁当作っちゃったの、だから早いの」

「ふーん、手作り弁当ねえうらやましい」

「お前さー、毎回あんな高い学食食えるほづがよっぽどいいぜー。坊ちゃんはいいいよなー」

この高校は“お金持ち”の人が通うことで有名な学校で、文也は大手企業の社長の息子。

6、7割の生徒が毎日送り迎えをもらっている。チャリ通の俺にとつちや憎たらしい話だ。

「じゃこれやるから、お前の弁当くれよ」

「へ？ふざけんなこれは俺のだ」

「ふーん」

「・・・何がふーんだよ」

「お前さあ、好きなんだろ？告らないの？」

「！！！！」

ゴホゴホとむせりながら驚きの眼差しを文也に向ける。

「まったく何急に言い出すんだよ！！」

「好きなんじゃないの？」

「俺たちは幼馴染で・・・」

「で？」

“早く言えよ”と恵介を促す。

「俺は・・・天子の・・・」

「天子の？」

「・・・・・・・・何なんだ？」

はあ？とさせた顔をいつものクールな顔に戻して眼鏡をくいっとあげて文也は立ち上がった。

「お前さ、どこの誰が見たってお前は天子ちゃんのことが好きなのうにしか見えないぞ！？」

「えっ？何？そーなの、俺ってそーゆー風に見られてたの？」

「見られてたも何も、一目瞭然だ」
びしっ言い放つ。

「うそ、そーなの？俺が？天子を？好き？えっと、好きってなんだ？好きなのか？俺、いつの間にか天子にすきをつかれてすきになってたの？うつそー信じられない、驚きだよ、驚かすなよ、驚かされたよ？つーか文也、なんで俺に教えちゃうわけ？教えていいことと悪いことがある？こーゆーのは本人が気づくまでそつとしておくもんだろー？きゃー意識したらなんかむずがゆくなつて来ちゃったじゃんか！！・・・・・・・・・・はあああゝ」

紅茶を優雅に飲みながら“あれ？やっと終わったの？”と恵介を見て「頑張つてね」と言った。

恵介は曖昧な返事をしてお弁当の残りを食べ始めた。

「いいんじゃないか？少しは自覚しといたって。何か発展するかも

しれないしな。今は席替えして、天子ちゃん後ろで一人の席だからあんまり悪い虫付くことも無いだろうしね」

天子のことを好きだと自覚してしまった恵介、何か面白いことないかなと楽しそうにする文也だった。

5つめ・じかく、じかく、じかく（後書き）

ご意見、ご感想お待ちしております。

6つめ：すーぱーかねもちびしょうねん〜その1〜（前書き）

定期更新出来るように頑張ります。最近コメディーちつくですが、皆さんどおなんでしょう？嫌いですかね・・・

6つめ：すーぱーかねもちびしょうねん〜その1〜

「天ちゃん良かったですね」と友達の沙夜子

「羨ましすぎるわね、それに皆、目が怖くなつてたわよ。貴方はあまり興味無いみたいけど」と友達の千佳

「何でかなあ？まあ綺麗だとは思うけど、そんなにいいかなあの人？」と何とも思っていない天子・・・

沙夜子と千佳は顔を見あわせて

「「はあ〜」」と溜め息をついた。

・・・・・・約5時間前・・・・・・

「おはよう諸君、SHR遅れて悪かったね、全員いるかな？えっと早速だけど、今日は転入生を紹介するから。じゃ入ってくれー」

と先生が言つと教室は少しざわついて、教室に入ってきた転入生を見て一気に響動めいた。ある一人を除いて…。

先生に呼ばれて教室に入ってきたのは、ブラウンと言うよりゴールドに近いサラサラで耳にかかる程度にのびた髪、長身でスラリとした体、くつきり二重に長い睫、きめ細やかで透き通るような肌、そして爽やかな笑顔の美少年だった。

「えー、イギリスから来た“右京麗土”君だ。まあ名字聞いてわかと思うけど、右京君はあの有名な財閥の御息だーって、おいおい、お嬢様方ー目がトロトロになつてゐるぞー、カッコイイのはわかるけどね、しゃきつとしろーしゃきつとー、じゃ右京君！自己紹介

いいかな？」

麗士は軽く微笑んで頷き、教卓の所に立った。

「はじめまして、右京麗士です。どうぞよろしく」と言ってニコツと微笑んだ。

甘い声ととびきりの笑顔にやられて女の子どころか男の子までもが魅了させられてしまった。

「じゃあ級長、廊下に机と椅子あるから運んでくれ、場所は・・・三原の隣だな」と先生が指示を出すと、女子は天子をじっと見て、級長の文也は（実は級長だった）返事をして立ち上がってから恵介をチラリと見て、恵介と悟は“マヂカヨ！！？”と顔をひきつらせた。

当の天子は…転入生にも自分の名前が出たことにも気づくことなく一人せつせとティラノザウルスを折り紙で作っていた…

6つめ：すーぱーかねもちびしょうねん〜その1〜（後書き）

ご意見・ご感想お待ちします！！貴方の一言で話が変わるかもしれません！！私にヒントを。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4936b/>

くるひもくるひも

2010年12月2日02時54分発行